

東京中央区で連携講座開講 本学教授4人がオムニバス形式で登壇

本学研究推進産学官連携機構と東京サテライトオフィスは11月7日～28日の毎金曜日に、東京都中央区の文化・生涯学習「中央区民カレッジ・まなびのコース」で、連携講座「科学技術の最前線」を開講しています。(会場：築地社会教育会館)

11月21日に開催の第3回目は、理学部 量子宇宙研究センターの吉村太彦教授が「宇宙から反物質が消えた謎を解明する」の演題で講義。講演内容は、「ハッブルにより発見された膨張宇宙を基に時間を逆に進むと、宇宙にはこれ以前に遡れない始まりがある。始まり直後のビッグバンでの極めて高温の状況では反物質が存在したが、物質と反物質にはわずかなアンバランスが存在したと考えられ、このアンバランスを説明したい。ニュートリノがマヨラナ粒子か否かについての実験がその鍵を握ると考えられる」というもので、やや難しかったのですが、聴講者から活発な質疑がありました。



花岡 URA の挨拶



講師の吉村太彦先生



説明する吉村先生



会場の様子